

新庁舎等の整備についてお知らせします！
新庁舎 井戸端会議

新庁舎・市民交流施設オリナスの工事の進ちょく状況をお知らせします

令和3年春の完成に向けて、新庁舎等整備地（西脇市下戸田128-1）では、建設工事が進められています。先月に引き続き基礎工事を進めており、庁舎東棟では、免震装置を設置しました。



▲工事現場の全景（新庁舎・市民交流施設建設地／4月10日）

庁舎棟（左側）はおおむね基礎工事が完了しており、仮置き土（右側）を運搬し、埋め戻しをしています。市民交流施設（中央）は引き続き基礎工事を進めています。



▲免震装置（新庁舎建設地／4月10日）

免震構造の庁舎東棟の基礎工事の様子です。コンクリートの打設が終わり、免震装置を設置しました。地震発生時には免震装置が水平に動いたり、揺れを吸収したりすることで、建物の揺れを低減します。免震構造とすることで、建物の損壊を防ぐだけでなく、内部設備の転倒も防止し、地震発生時にも庁舎機能を維持することができます。

◆問合せ 新庁舎建設室（市役所内線365）



片山市長から辞令を受ける藤原久和団長(右)

火消しの重責、担う決意
 （4月5日 コミュニティ消防センター）
 消防団員への辞令交付式で、4月から団長に就く藤原久和さんが、片山市長から辞令を受けました。藤原団長は「市民の尊い命と貴重な財産を守り、災害のない明るい西脇市を」と幹部団員に呼び掛けました。今回は感染症対策として、消防大会を中止。辞令交付式では出席者を限定し、席の間隔を空けたり、換気のために扉や窓を開放したりするなど、対策を講じて実施しました。

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



市役所1階の市民ギャラリーで、産元商社の株式会社西脇小西が播州織製品を展示。多様な生地を中心に、テレビ番組で話題のクッション製品が並んでいます。（6月30日まで、西脇市役所）



市役所2階の郷土作家ギャラリーで、「西脇市美術協会新会員展」を開催。細川勝さん、増本美子さん、垣内博雄さん、天野潮彦さんの作品9点を展示しています。（5月29日まで、西脇市役所）



駐車場に診察用と待合用の大型テントを設置。国の緊急事態宣言を受けて、当初4月中旬までとしていた専用外来の運営期間を延長

新型コロナウイルス対策として、西脇病院の駐車場に大型のテントを設置し、発熱者を診察する「発熱トリアージ外来」を設けています。近隣の公立病院の外来受け付け停止を受けて、西脇病院も閉鎖される事態を避けるため、西脇市多可郡医師会の協力を得て運営しています。発熱トリアージ外来は加東健康福祉事務所や開業医を通じて来院する患者を対象にしており、患者が新型コロナウイルスに感染していた場合に、院内感染を防ぐのが目的。他の来院者との接触を避ける通路も設けており、発熱のある外来患者を隔離して診察することができます。運営は月曜から金曜までが午前と午後、土曜は午後のみ。西脇病院と医師会の医師約25人が、輪番制で診察しています（19ページに関連記事）。

院内感染防止に発熱患者専用の外来開設
 （3月23日～5月8日（予定） 西脇病院）



いけうち製の噴霧器で霧状の次亜塩素酸水を噴射



岡崎塾の岡崎正忠代表取締役(左)

図書館や小中学校など、公共施設での新型コロナウイルス対策に役立ててほしいと、西脇市は株式会社いけうちと株式会社岡崎塾から次亜塩素酸水（計340リットル）を寄付いただきました。次亜塩素酸水は強い除菌効果と安全性が期待できるとされ、食品関連の現場で多く使われています。

最近では全国的な新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、公共施設での活用が広がっています。西脇市が丘複合施設みらいえでは、いけうちの協力を得て、玄関に同社製の噴霧器を設置。来館者がセンサー付きのマットを踏むと、霧状の次亜塩素酸水が数秒間、噴射されるようになりました。

公共施設のウイルス対策にー新たに2社が寄付
 （3月31日、4月14日 西が丘複合施設みらいえ、西脇市役所）

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで（市役所内線207）。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 Facebook で情報発信中！